2009年12月1日発行　第15巻第13号　通巻181号
（毎月1回10日発行）1996年1月24日第3種郵便物認可

auto fashion import

af imp.

ガイシャイジリ大好き♥センスアップカーマガジン

特別なブックinブック
いい音聴きたい♡
輸入車オーディオプロショップガイド!

祝創刊15周年へ、ラスト1号
特大号♥完全保存版

12
www.autofashion.com/imp
2009年12月号　700円　毎月10日発売
次号2010年1月号は12月10日(木)発売

スタイルアップカーコンテスト命な皆様に愛と感謝を♥
ファイナルステージバトル36台登場!

アナタのクルマが大変身!
夜光輸入車大特集

ナイトメイクアップ!

夜、妖艶なるスタイルアップのススメ!

最新スタイルアップカー♥
ABT VW GOLF GTI
Alpil AUDI A4

海外チューナーズドイツレポート
speedART

秋のイベントモリモリレポ♥
BMWファミーリエ
ヒットハウスロコツーリング
ワンス、ボルボオンリーツーリング
VW&AUDIフェスト

輸入車チューニング RS! imp!
直線番長0(ゼロヨン)→400m大会♡

speedART

美しさと速さを手に入れる。

ポルシェというスポーツカーをベースに、よりスポーティでエレガントなチューンドモデルを作り上げる。スピードとグッドデザインを融合させるという社名通り、パワフルで魅力的なコンプリートモデルを生み出す気鋭のポルシェチューナー、スピードアート。日本のメディアとして初めて、その全貌を紹介する

REPORT●Keisuke KUMASAKI (af imp.)
PHOTOGRAPH●Michio IKURA
INTERPRETATION&COORDINATION●Hiroshi TSUJI(Hiroshi TSUJI OFFICE)

speedART Automobiletechnik & Design GmbH
Leonberger Str.44
D-71277 Rutesheim
TEL.+49 7152 / 90 110-0
http://www.speedart.de/

af imp.
12 CONTENTS
No.179
www.autofashion.com/imp
次号2010年1月号は
12月10日（木）発売です。
afimp.×GOLF afimp.×MINI
ゴルフVとミニに続くシリーズムック
afimp.×BMW 11月20日全国書店で発売!!
毎月10日はインプの日です!

感激のスタイルアップカー
ビジュアルインプレッション!

もっとも輝く、新しきスタイルアップカーたち

NEW STYLE! NEW PARTS!

20 ABT GOLF VI GTI
新世代を感じさせる鋭角的なデザイン
26 Alpil AUDI A4
“A4”の立ち位置を決定づける、ジャストナウのあしらい

WORLD TUNER'S NEWS!

海外からの最速チューナーズドレンド!

31 BMW Z4 by AC Schnitzer
Simoni Racing STEERING WHEEL and CLOCK
AVUS PERFORMANCE Audi TT-RS
33 Carlsson E-CK63 RS
SPORTEC Audi S4 Avant
JAQUEMOND ArtWork Porsche
35 “Racing Edition” from LUMMA Design
Lorinser E-Class
MTM VW Golf Racer
37 COBRA CITYGUARD with LED Daytime Running Lights
KICHERER E-Class
FOLIATEC INTERIOR ColorSpray
39 MFK Autosport Audi RS6
Cargraphic Airlift suspension kit
HAMANN LARGO
41 GERMAN TUNERS REPORT 2009-2010
speedART
さらなる速さと美しさを手に入れる
49 TUNING KEY WORD
チューニングトレンドを聞け!
OKADA PROJECTS オカダプロジェクツ
開発 下岡良彰
スパークプラグの火花は強ければ強いほど良いワケではない
重要なのはエンジンとのマッチングだ!!
51 TUNING TREND PARTS
輸入車チューニングの注目パーツ
1.BLITZ_AG S-Gauge
バックライトにこだわったサブメーター
2.SACLAM SILENCER KIT
実戦に向けて排気効率アップ
3.CARBONIO CARBON AIR BOX
インテークのボリュームアップ
92 Shop Works 2009
フォブシュランクからイチ早コーディネイト提案!
シロッコ快進撃、はじまる。
94 RIEGER TUNING SCIROCCO BLACK 2.0TSI with XENON
SNKチューニングのECUチューンでパワーアップ!
96 TOP OF THE STYLE-UP!!
キャンバー角を操作して、足もとをもう一歩、攻める。
NEX SUSPENSION SYSTEM GTP-TYPE / GTAP-TYPE

COVER PHOTO
ART DIRECTOR : 大橋久美 Kumi OHASHI
PHOTOGRAPHER : 南井浩孝 Hirotaka MINAI
COVER CAR : Fame! BMW335i

BTR-XL 630

創業以来ポルシェひと筋 新進気鋭のトータルチューナー

←開口部が広げられたBTR-XLのフロント。カーボンエアダクトとリップスポイラーが追加され、より攻撃的なルックスを見せる

↑ブラック&ホワイトのモノトーンに仕立てられたRSC Ⅱ エレガンス。18.5J×20インチ。タイヤは235/30:305/25

↑ボトムから切れ上がっていくサイドスカート。動的なビジュアルイメージと共に、空力面でもアドバンテージとなる

←630hp/840Nmを発揮するパワーキット。200セルのスポーツキャタライザーやVTGターボのモディファイ、インタークーラーやフィルター、ECUの変更、さらに強化クラッチも搭載されているが、気難しさはまるでない

↑ボリューム感のあるヒップ周りだが、車体は絞り込まれ、重たげな印象はない。ストライプの効果もあって、スポーティなイメージに

↑エンジンフードに被さるようにセットされているリアスポイラーはアジャスタブル。こちらもターボを意識させるフィニッシュだ

↑エンジンの排熱を考慮したエアダクト。ターボモデルらしいディテールといえる。エキゾーストはマットブラックに仕上げられている

ゲンバラから独立して10年で一流チューナーへ

シュツットガルト近郊の街、ルーデスハイム。ポルシェチューナー、スピードアートが拠点を構える小さな街だ。ご存じの通り、シュツットガルトはメルセデス・ベンツと共に、ポルシェのお膝元でもある。今からちょうど10年前、スピードアートは同じくシュツットガルト近郊のレオンベルクという街で旗揚げをする。ゲンバラを辞したビョルン・シュトリーニング氏が、ポルシェの動向を敏感にキャッチすることができるこの地に根を下ろしたのは、ある意味必然だったのかもしれない。

「ゲンバラにはセールスとして入社しましたが、始終ファクトリーに入ってメカニックと一緒に自分のクルマをイジってました。中古で手に入れた993のターボは最高でしたよ」ゲンバラ在籍はわずかに1年。その後メカニックを1人連れ、スピードアートを立ち上げることになる。

「当初は、イタリアのホイールブランドの輸入を中心にしていました。もちろんポルシェ用です。その後、ホイールだけでなくチューニングパーツやボディパーツのオーダーも舞いこむようになったので、996やボクスター用のパーツを開発したというわけです」こうしてシュトリーニング氏は、ポルシェチューナーとして自分のブランドを持つという夢を、30代の前半で叶えてしまった。

その後のスピードアートはというと、ドイツのクルマ雑誌、Sport AUTO誌が主催するチューナーグランプリや、他のスポーツカー系雑誌のテストなどで連続して上位に入賞し、ドイツを始め、ヨーロッパで新進気鋭のポルシェチューナーとして認知されるに至っている。

「チューナーグランプリでは、カイエンの先代モデルで04年、05年と連続して2位に、そして現行モデルでは、07年、08年と連続して優勝しています。また997ターボ・カブリオレは昨年2位を獲得しました。ポルシェだけに専念し、特化することで、ポルシェ専門チューナーとしての真価を発揮できたと思っています」。

↑シートのセンター部分は、往年のポルシェで使われていた柄を復刻したもの。クラシカルなモチーフを取り入れている

↑スカッフプレートやフロアマットまで、トータルでインテリアを作り込めるようにプログラムが充実している

↑カーボンとレザーでトリムされたインテリア。ステアリングやシフトもスピードアートのアイテムだ

美しく、そして機能するエアロと よりパワフルなエンジンチューニング

ラバラの状態だったが、すでにファクトリーで解析が進み、ショーには間に合う予定だという。

コンピューターを皮切りに、エキゾーストやスポーツキャタライザー、インタークーラーやビッグタービンに至るまで、エンジン周りのチューニングメニューが充実している。タービンも純正採用されているVTGを使うなど、耐久性やマッチングも十分に考慮されているのだ。ノーマル比で200ps以上のパワーアップを果たすメニューもラインアップされており、その走りは熾烈であろうことは容易に想像できる。

一方で、ボディのオプティカルチューニングや内装の張り替えなど、総合的なモディファイが行えるメニューもラインアップされている。

「ボディワークについては、社外のデザイナーと共同で行っています。ポルシェの持つボディラインを崩すことなく、さらに必要な機能やディテールを盛り込んでデザインをまとめて行きます。ちなみに新しくリリースするホイール、LSCフォージッドは私がすべてデザインしました」特に911系のボディは、リアエンジンという特性上、空力がとても重要な要素となる。前後バランスが少しでも狂えば、クルマの挙動はたちまち不安定になりかねない。見た目だけのボディパーツは命取りなのだ。機能するエアロ、本来ならば当たり前のことなのだが、スピードアートのエアロは、美しく、そして確実に機能するのだ。

機能を求めると、美しいデザインになる

「ハードウェアの機械的なアプローチは、どの世代のポルシェでもまったく問題なくクリアできます。しかし最近のクルマは、電気的なチューニングを避けて通ることができません。現在は最新のパナメーラと997のフェイスリフトを手掛けていますが、内装をすべて取り外し、配線を引き直すなど、手を入れる必要がある箇所は格段に増えましたね」今年のエッセンモーターショーでデビューする予定となっているスピードアートのパナメーラ。取材時にはパ

↑中央で折り返されたサイドスカート。大柄なカイエンのサイドビューを引き締めるポイントとなる

↑リアスポイラーはハーフタイプ。中央をディフューザー状に造形しつつ、マフラーの排熱も考慮されている

↑開口部から覗く左右出しのエキゾースト。テールエンドはマットブラック。凄みの効いたディテールだ

↑BTRとは異なる形状のルーフスポイラー。大振りのマウンドとシンプルなウイングがカイエンを引き立てる

←ホイールはクロスレーシングSUV、サイズは9.5×22インチ。ブレーキはツーリスモキットとして368φのローターとキャリパーをビルトイン

→タテに仕込まれたデイタイムライトとヘッドライトカバーもスピードアートのアイテム

↑アルミペダルやマットまで、トータルでコーディネイトできる、スポーティラグジュアリーな雰囲気が漂うインテリア

↑ダッシュやメーター周りドアパネルまで工夫にアルカンタラで張り込まれている。ステアリングはパドルシフトに対応したもの

TITAN -BTR 635

すべてのポルシェに さらなる速さと美しさを

↑強くうねりを持ったサイドスカート。大柄なボディをよりスポーティに演出する重要なアイテムだ

↑独特の形状を持つリアスポイラー。ハイマウントの両側をスリットのように造形し、ルーフからの風を整流している

↑4本出しのエキゾーストは大迫力のサウンドを弾き出す。中央はディフューザー形状となり、空力面でも強化されている

↑エアフィルター、タービン、スポーツキャタライザー、エキゾースト、コンピューターを変更して635hpを発揮するエンジン。2.5トンの巨体を楽々とドライブする

←タイタン・エレガンスの22インチを装着。力強いスポークはオーバーフェンダーとのマッチングもバッチリ。車高はエアサスコントローラーで約40mmほど落とされている

↑代表のビョルン・シュトリーニング氏。ゲンバラ時代には993ターボを中古で手に入れてイジリ倒したのだとか。ちなみにテックアート社との関係はない

ポルシェに足らないところは、どこだ?

『いつの時代も最新のポルシェが最良のポルシェである』とはよく言われるフレーズだが、その言葉通りにポルシェからリリースされる新型車は常に高機能化、高性能化を遂げてきている。最新のポルシェに乗ると、そこにチューナーが介在する余地は、果たしてあるのか? そんなネガティブな疑問すら浮かんでくる。シュトリーニング氏にとって、ポルシェのシリーズモデルに足らないものとは、どんなところなのだろうか?

「まず言えるのは、ポルシェ自体が大企業であるということです。顧客一人ひとりにアジャストしたクルマを作るわけにはいきませんからね。技術的にはまったく問題なくても、それを許す販売の環境はないでしょう。そしてもうひとつは、グレード間に必ず格差があるということ。ケイマンは911よりも下。これは当たり前なのですが、ケイマンでもっともっとパワーが欲しい、もっと速く走りたいというヒトもいるわけです。新しく発表されたパナメーラにしてもGTカーとしての性格が強いので、ポルシェが作り上げてきたイメージとは違うと思っているヒトも少なくないでしょう。我々が手を加えるのは、まさにその部分なのです」

911にせよ、ケイマン/ボクスターにせよ、そしてカイエンにせよ、スピードアートはすべてのモデルに、エアロパーツやエンジン、排気系、サスペンション、そしてインテリアに至るまで、チューニングとモディファイのメニューがラインアップされている。すべてのポルシェが、そしてすべてのパートが、スピードアートが手掛ける対象となるのだ。

BTR 500

↑巨大なウイングとリアスポイラー、そしてスリットの入ったディフューザーという迫力のあるリアビュー

↑スポイラーにはフレッシュエアを導入する巨大なインテークが備わっている。機能を引き上げるためのエアロデザインだ

↑シンプルな3つの開口部をレイアウトしたフロントバンパー。さらに薄いリップを装着することも可能だ

↑有機的なラインを描く5スポーク3ピースホイール、RSC Ⅱ エレガンス。往年のポルシェをイメージさせるデザイン

↑リアタイヤに向けて切れ上がるラインを描くサイドスカート。整流よりもダウンフォースが得られそうな形状だ

↑パナメーラ用に設定されるLSCフォージド。22インチまでのサイズ設定が予定されている。デビューは今年のエッセンだ

PS9-650

「メーカーは、チューニングやモディファイする能力をもちろん持っています。でもしない。だから代わって我々がやるのです」経営学を学び、セールスとしてゲンバラに関わったシュトリーニング氏ならではだ。

さて、スピードアートのウェブサイトを開くと、チューニングと共にクラシックというカテゴリーがあることに気付く。先ほど「すべてのポルシェがその対象」と記したが、クラシカルなポルシェ、例えばナローや空冷も手掛けているのだろうか?

「チューニングというわけではなく、整備やレストアを行っています。先日もマイレンベルクのクルマが入庫していました」マイレンベルクとは、シュツットガルトとベルリン、デュッセルドルフにある自動車の共同展示場のこと。クラシックから現代のクルマまでを集めた施設で、オーナーが自分のクルマを展示していたり、マイレンベルク自体が所有しているクルマをレンタルするといった、クルマに関わる総合施設。スピードアートはモダンポルシェのチューニングやモディファイだけでなく、クラシカルポルシェを現在の路上に戻すということも行っている。

ポルシェ一筋にチューニングを続けてきたスピードアート。シュトリーニング氏曰く「あまり深く考えないでつけた」というその社名に現れている通り、さらなる速さと、さらなる美しさを、すべてのポルシェに提供するということを創業以来10年間、ブレずに続けてきた。そしてそのスタイルは、これからもずっと続いていくのだろう。他のライバルチューナーとは違った、新たなるチューンドポルシェを楽しみにしたい。